

## 2012年エフネット選抜タイ遠征

杉坂 雄一郎

2012年11月2日～5日までエフネット大学選抜として最高の仲間たちとタイ遠征を行った。目的としてはタイのプロリーグ、タイ大学生との試合とワールドカップ観戦だ。10人のメンバーは選抜チームということで国内練習は2回という十分とは言えない準備で1日目、2日目の試合に臨んだ。今回の遠征のコンセプトはチャレンジすること。個人的にもそれが大きな目標だった。

タイについて初めての試合。相手はスラタニーFC。自分たちは相手の実力を遥か上だと思っていた。しかしやってみると緊張していつものプレーができない部分はあったが、とても太刀打ちできない相手ではなかった。個人的には積極的なプレーを意識して、遠めからでもシュートを放った。全体として守備の課題もあり、結果は1-6の敗戦。しかし通用しない相手ではないと確信した。この日はFでやっていたベッチーニョ選手らのプロを含めタイの元代表選手がいた。全体的にパスのスピードが速く、ディフェンスのずれをうまくつかれ、崩された。この日の課題は2日目のミーティングでも話し合ったがディフェンスのときに裏を取られないこと、そのほか基本的なことを再確認した。

2日目タイのプロのバンコクFCと大学生チームと対戦した。1試合目の相手は動きが早く、若い選手を主体に早いパス回しから縦にボールが入る良いチームだった。バンコクFCはシンプルでピボ当てがうまいチームだった。中から外への展開がうまく、ディフェンスラインが下がっていった。プレー2試合目の大学生のチームとは特にチームの状態も最高によく、互角の戦いをした。結果は引き分けだった。全員が悔しくて特に自分は自分のプレーをあまり発揮できず、さらに悔しかった。

試合に関して全体的に言えばチームが短期間で成長したことに関しては満足している。全員がしなければいけないことを上級生が1年生に明確に伝えて目を見張るような成長を遂げて戦えるチームになっていった。個人的には満足はできていない。タイのプロと戦う緊張とチャレンジするという気持ちが先走ってしまい、試合はいつものようなプレーができなかった。しかし速い展開の中で今までは通じない部分もあった。すべてを置いてくる気持ちがあったので今までのことを全部出そうとも思った。もちろん通じる部分もあった。チャレンジという部分で成し遂げられないことがあった。考えすぎて、プレーが委縮してしまったことだ。上級生は特にディフェンスの面でカバーをする部分があったのでいつもよりもまわりに気を配らなければならなかった。自分はそのせいか攻撃の時も後ろに残ってしまうことがあり、常に周りを気にしすぎてそれが悪循環にもなり、なかなか自分から攻撃のきっかけになることが無かった。それが自分らしいプレーにつながらなかったからだ。今回、リスクを恐れてチャレンジができなかったことをとても後悔している。これからも遠慮などせず、自分のやりたいプレーを伝えて、チャレンジして得点に絡んでい

くプレーをしていきたい。それで結果を残せばいいし、後悔の残らないような戦いをこれからもしていきたい。

現地ではコーディネーターで大学リーグOBの真野さんと軽部さんにサポートをもらった。真野さんはタイのプロで活躍し、今は自営業でのアパレル販売をしている。移動途中で質問をし、貴重なお話を聞くことができた。なぜタイなのか。なぜ日本ではなくタイにチャレンジしたのか。気になったことを全部質問した。そこにはタイでの実現の可能性と日本にはない選択肢があるということが絡んでいた。三年生ということでこれから就職活動が控えているがそういうことも意識しながら進めていきたい。チャレンジをし続ける努力をしてこれからもチャレンジをしていきたい。今回のタイ遠征は自分の人生にとっても大きな影響があり、最高の遠征だった。次はカレッジフェスタ in タイを決行してほしい。また貴重な経験ができるように日々チャレンジしていきたい。

最後の日はワールドカップ観戦。日本 vs ポルトガル。身震いするようなプレーの連続で瞬きすることを忘れていた。ポルトガルの攻撃は、シンプルでとても速く、とても止められないような状況だった。日本のボール運びはうまくいかず、ポルトガル相手に苦戦を強いられていた。しかし星、北原、森岡、逸見の得点で同点に追いついた。ゴールシーンは目に焼き付くほど残っている。ポルトガルのパラレラは世界でもトップクラスだと確信した。パラに入るときのスピードのきりかえの速さは日本のディフェンスにも追いつかせない速さだ。試合の展開はとてもレベルの高いものだった。1つ1つの動きがすべてのプレーを決めるといっても言い過ぎではないほどのレベルの高さだった。日本はポルトガルを怖がってボールを取られないようにパスをしてしまい、追いやられる傾向にあったが、森岡などタメを作れるとボール運びがよくなりチャンスを作れていた。生で見る迫力が冷静さを失わせて試合を客観的に見るができなかったが、何度も見返して自分のものにしていきたい。

今回のタイ遠征は自分にとって刺激的なものだった。現地での出会いと戦い、すべてが日本では経験のできない、貴重な体験ばかりだった。いろいろな可能性を残してこのタイ遠征を終えた。僕らはこのことを伝えていかなければいけない。このタイ遠征で得たチャレンジすることを忘れずにこれからもフットサルを続けていきたい。